

●人口・世帯数の概要

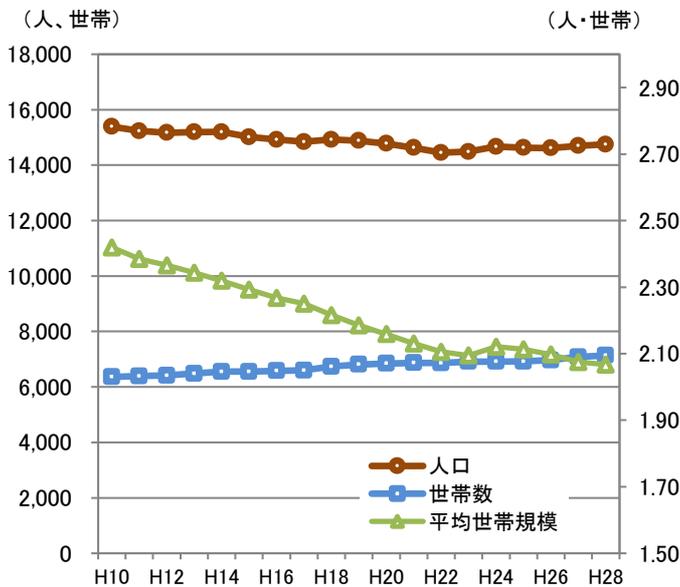
	平成18	平成23	平成28	平成18 ～23年	平成23～ 28年	平成23 年比率 (%)	平成28 年比率 (%)	平成28年 区平均比 率(%)	平成28年 市平均比 率(%)
人口 (人)	14,925	14,483	14,747	▲ 442	264	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	1,807	1,685	1,778	▲ 122	93	11.6	12.1	12.0	12.7
（内0～5歳） (人)	723	692	700	▲ 31	8	4.8	4.7	4.9	4.9
15～64歳人口 (人)	10,119	9,466	9,094	▲ 653	▲ 372	65.4	61.7	61.4	63.7
（内20～24歳） (人)	897	687	705	▲ 210	18	4.7	4.8	4.8	5.1
（内25～39歳） (人)	3,254	3,026	2,632	▲ 228	▲ 394	20.9	17.8	17.9	18.5
65歳以上人口 (人)	2,999	3,332	3,875	333	543	23.0	26.3	26.6	23.6
（内65～74） (人)	1,531	1,664	2,026	133	362	11.5	13.7	13.8	12.4
（内75歳以上） (人)	1,468	1,668	1,849	200	181	11.5	12.5	12.8	11.2
世帯数 (世帯)	6,735	6,915	7,134	180	219				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.22	2.09	2.07					2.10	2.13

*「町丁別世帯と男女別人口」「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

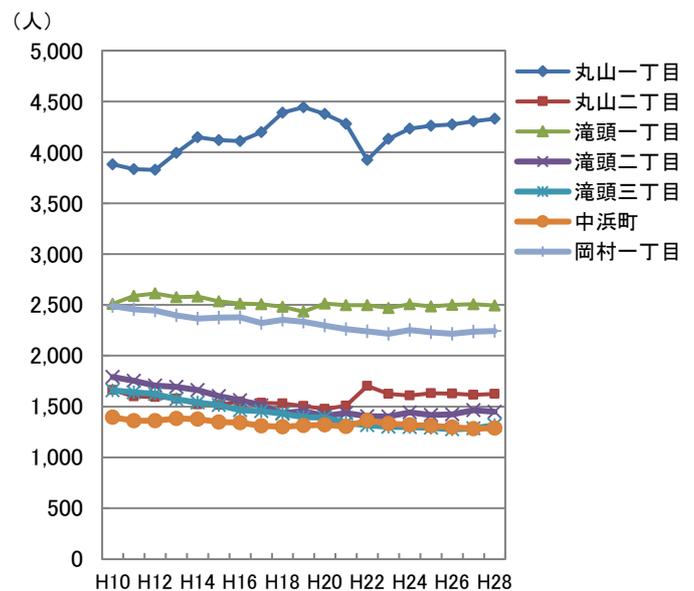
- 3) 人口は約 14,700 人で安定した状態が続いています。平成 23～28 年の期間で見ると人口は増加しました。
また、人口密度は約 147.9 人/ha で、区内では最も高くなっています。
- 4) 世帯数は約 7,100 世帯で、近年はほぼ安定しています。
- 5) 平均世帯規模は 2.07 人/世帯で、概ね区の平均水準です。他の多くの地区と同様、世帯規模の縮小傾向が続いていましたが、平成 23 年頃からは安定しています。
- 6) 年齢構成は、65～69 歳と 40～44 歳の比率がやや多いものの、全体としてバランスがとれた年齢構成になっています。

- 7) 年齢 5 歳階級別人口の推移率をみると、平成 18～23 年の期間は、全ての年齢層で推移率が 1.0 を下回っていました。平成 23～28 年の期間は、60 歳未満のすべての年齢層で推移率が 1.0 を上回りました。特に、20～24 歳の若い就業者が転入増加し、子育て世代や子供も転入増加傾向になりました。
- 8) 丸山一丁目に、都市機構の分譲住宅「磯子丸山台ハイツ」、滝頭三丁目には市営住宅「滝頭」「滝頭第二」「滝頭第三」が立地しています。

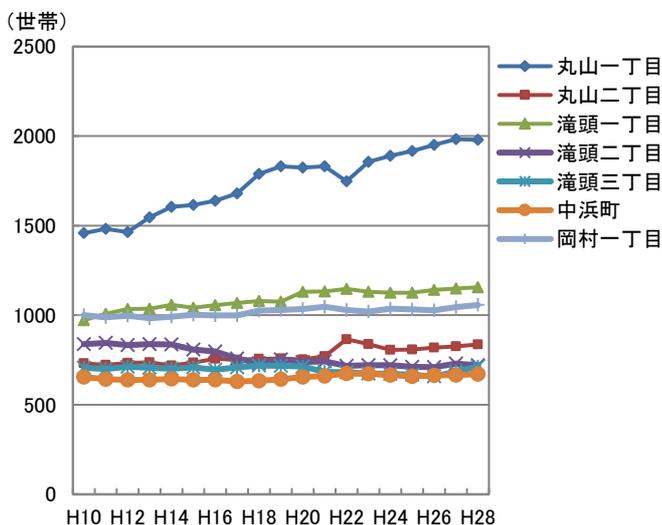
●地区の人口、世帯数の動向



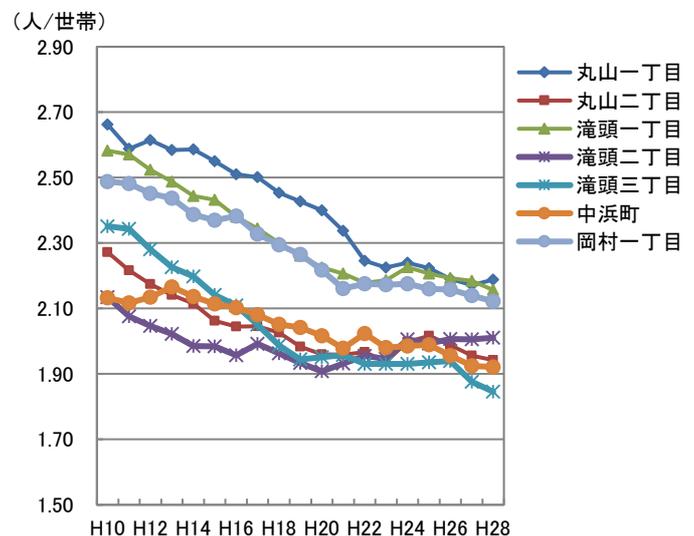
●町別・人口の動向

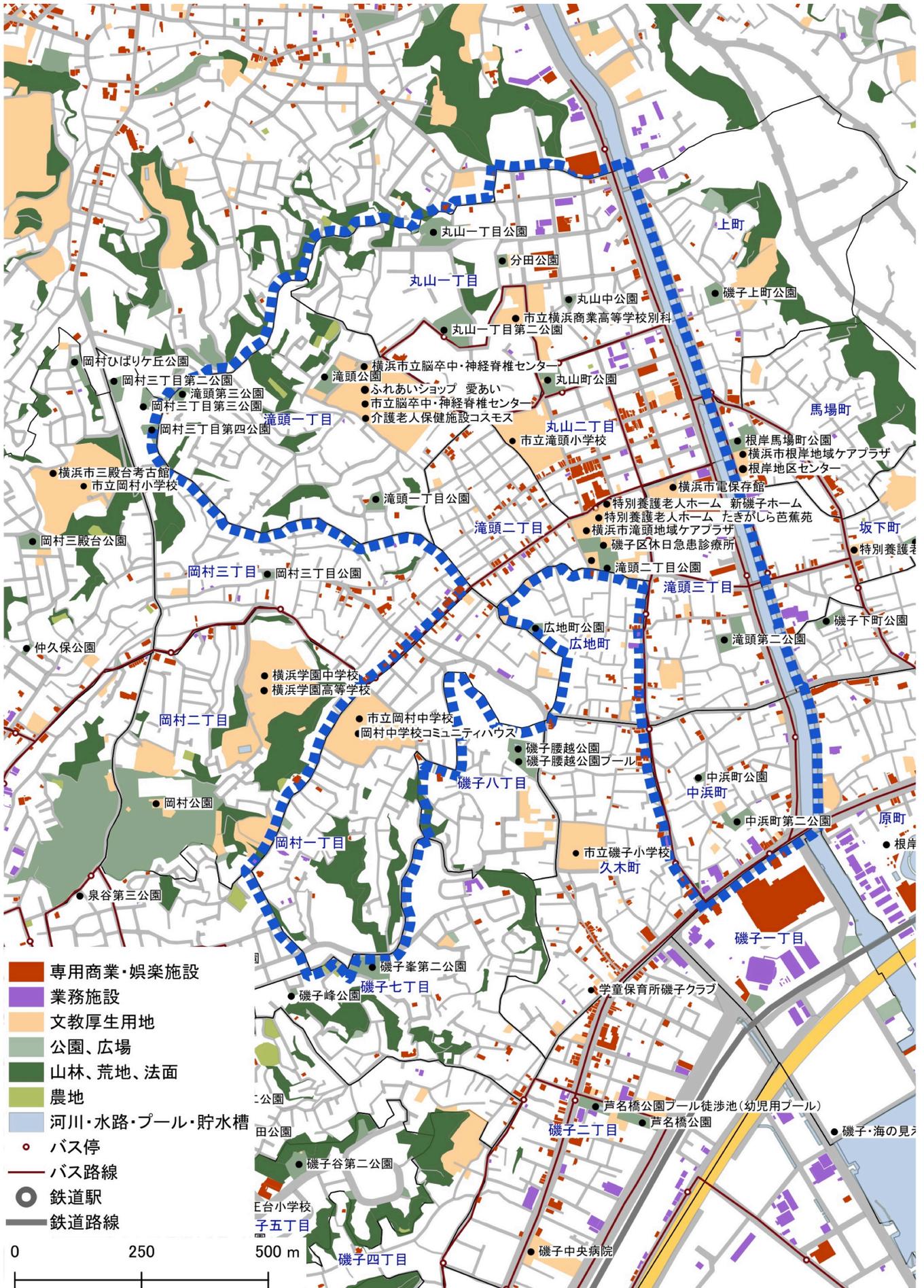


●町別・世帯数の動向



●町別・世帯規模の動向

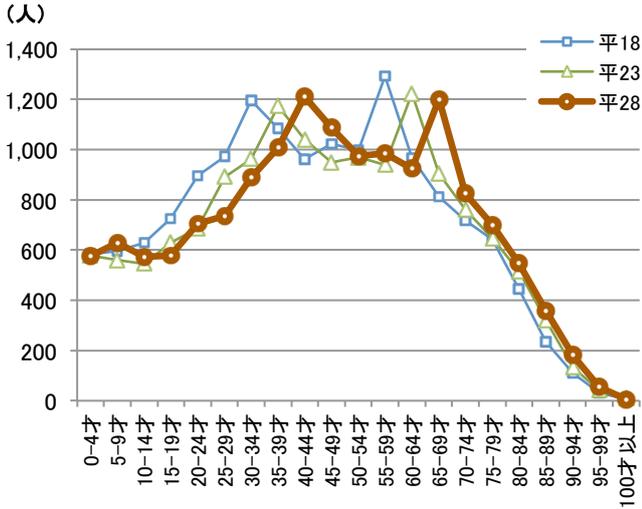




- 専用商業・娯楽施設
- 業務施設
- 文教厚生用地
- 公園、広場
- 山林、荒地、法面
- 農地
- 河川・水路・プール・貯水槽
- バス停
- バス路線
- 鉄道駅
- 鉄道路線

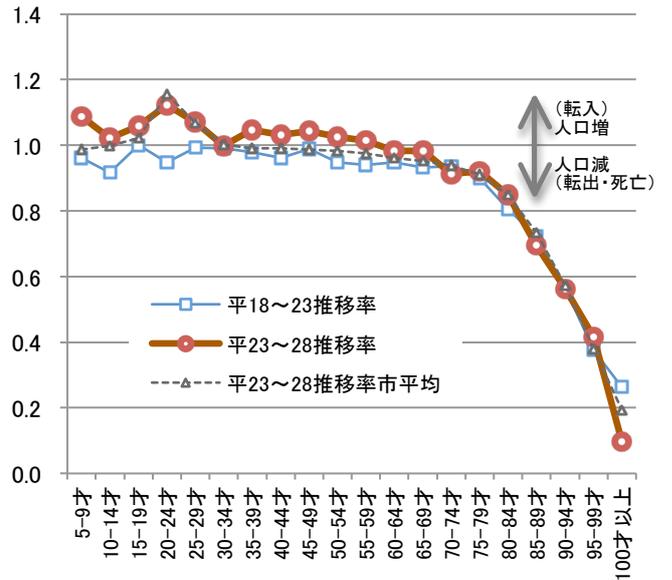
*都市計画基礎調査結果 平成25年(横浜市建築局)を活用した

●年齢5歳階級別人口の変化



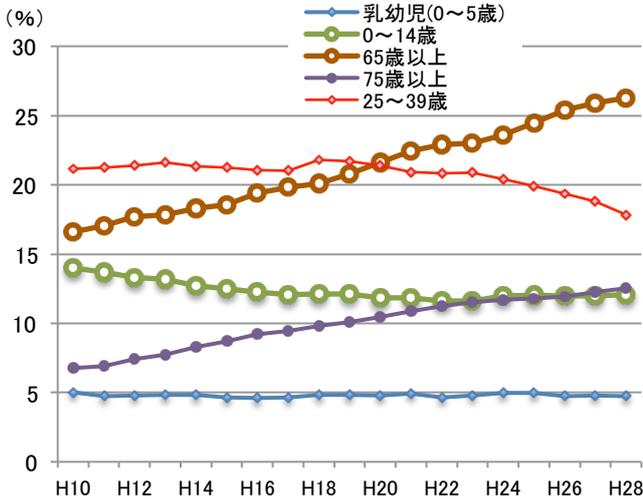
*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

●年齢5歳階級別人口の推移率



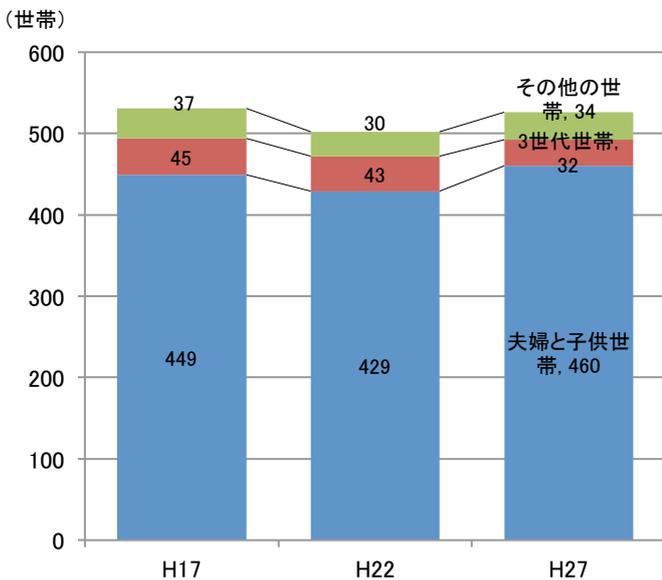
*各年「町丁別年齢別男女別人口」による
*推移率：この場合は、年齢の5歳別人口が、死亡、転出入によって5年後にどう変化するかをみる指数。現在の5歳階級別の人口÷5年前の5歳若い5歳階級の人口

●乳幼児・高齢者比率等の動向



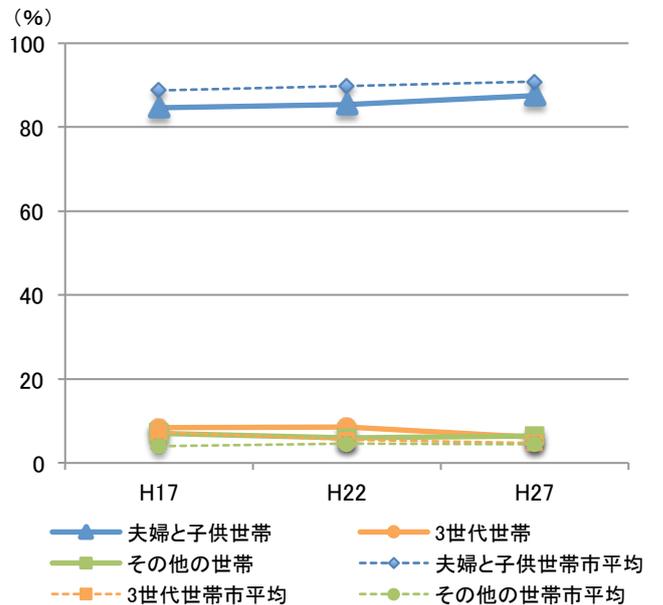
*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の動向



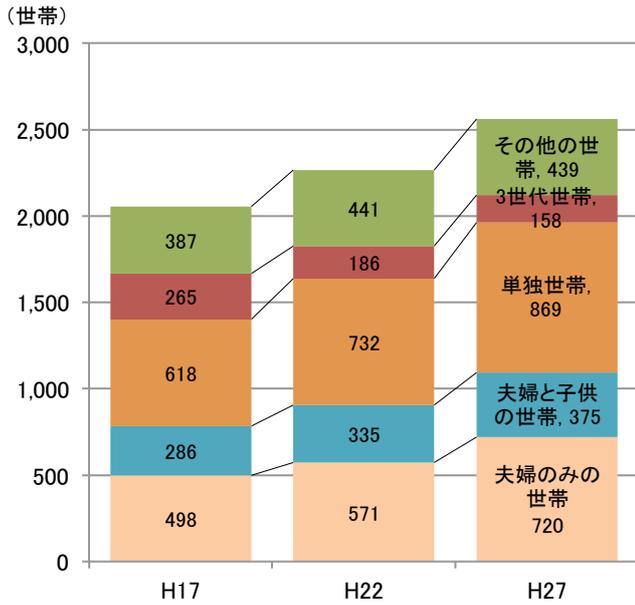
*各年「国勢調査」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の比率

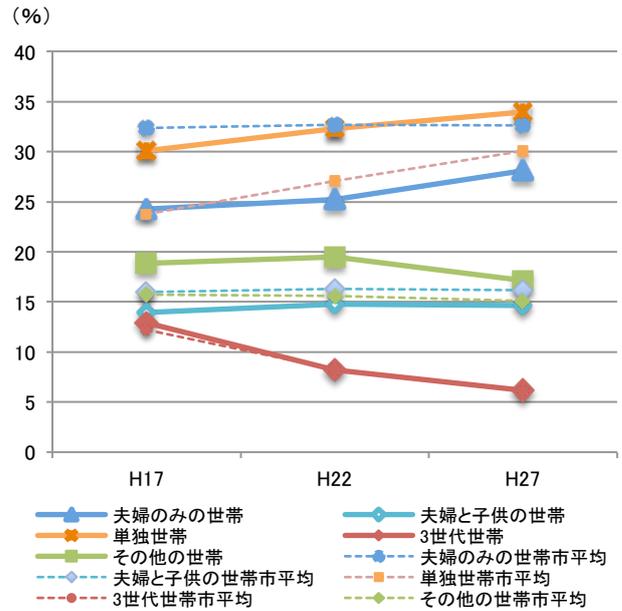


*各年「国勢調査」による

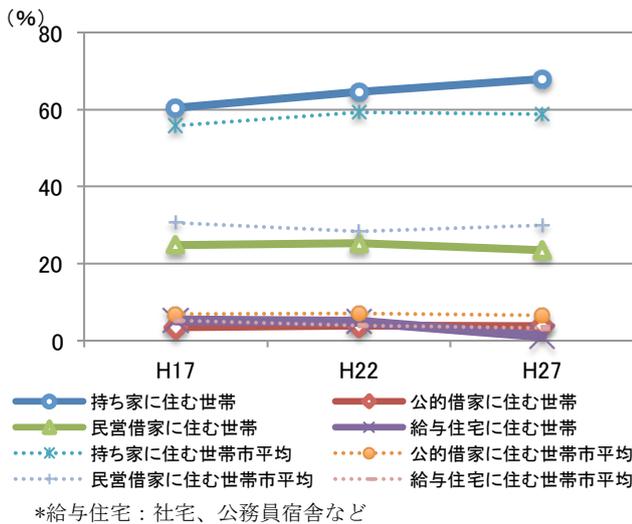
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の動向



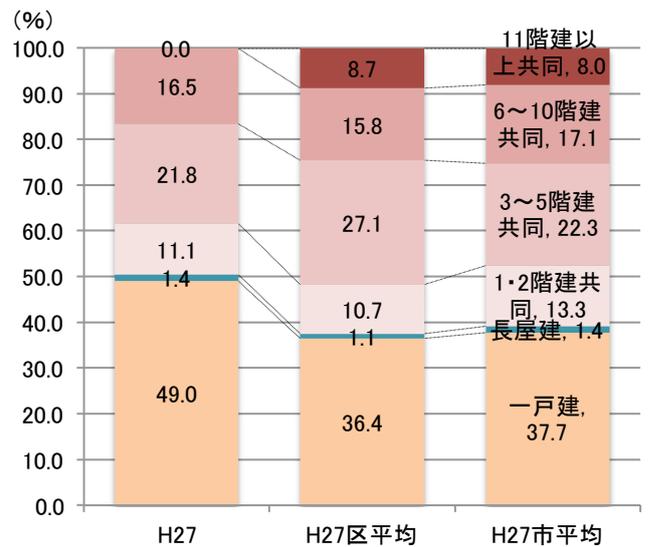
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の比率



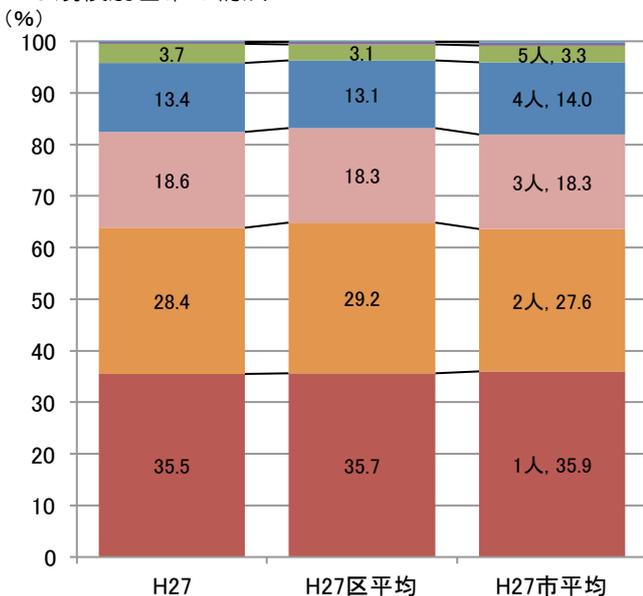
●住宅の所有関係別世帯の比率



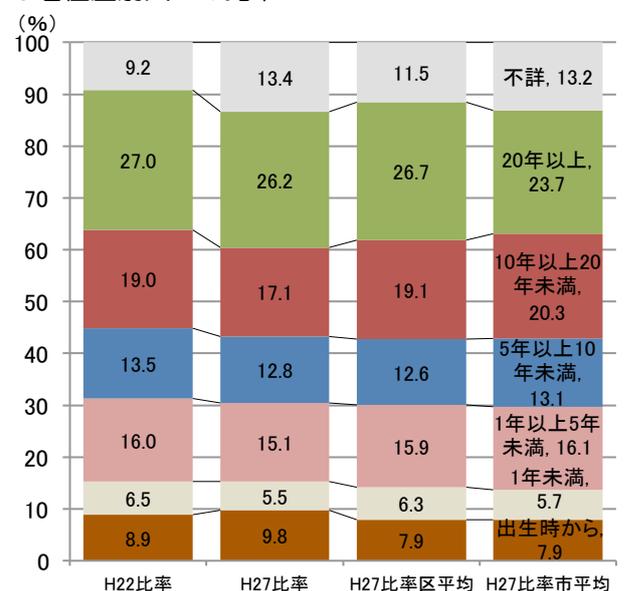
●住宅の建て方別世帯の比率



●規模別世帯の構成



●居住歴別人口の比率



2. 地区の居住者特性

2.1 人口密度が屏風ヶ浦地区とともに高い地区であり、人口や世帯数は安定した状態が続いている

1) 人口密度は、丸山一丁目（192.5 人/ha）、二丁目（153.6 人/ha）や滝頭二丁目（162.9 人/ha）で高くなっています。

このうち丸山一丁目、二丁目は共同住宅に住む世帯の比率が高くいずれも 70%を超えています。一方、滝頭二丁目は、戸建住宅に住む世帯の比率が 70%を超えており対症的な特徴になっています。

2) 丸山一丁目で平成 13～18 年にかけて、マンションの立地による人口増加が見られましたが、再び安定した状態に戻りました。平成 23 年以降にも人口、世帯数の増加がありましたが、これも安定化しました。

2.2 滝頭二・三丁目、中浜町で高齢者の比率が高い

1) 滝頭二丁目（31.6%）、三丁目（30.0%）、で特に高くなっています。

2) 滝頭二丁目は高齢化率が高く、75 歳以上の高齢者の比率も 19.3%と高くなっています。特別養護老人ホームが 2 か所あることによると考えられます。

3) 丸山二丁目、滝頭二・三丁目、中浜町は、高齢の単身世帯の比率が高くなっています。

2.3 丸山一・二丁目は共同住宅に住む世帯が多い

1) 丸山一丁目及び二丁目共同住宅に居住する世帯の比率はそれぞれ 70.1%、73.7%（1・2 階建ての共同住宅含む）と高くなっています。

2) 丸山一丁目では、近年も共同住宅にすむ世帯数が増加しており、持家に住む世帯の比率も 86.0%と高くなっています。

3) 丸山一丁目では、平成 18～23 年は 70 歳未満の年齢層が転出し減少する傾向が見られました。平成 23～28 年の期間は、30 歳代と 10～14 歳が転出し減少する傾向が残っていますが、70 歳以下の多くの年齢層で人口が転入増加する傾向が見られるようになりました。

2.4 岡村一丁目、滝頭一・二丁目は丘陵上にできた戸建て中心の住宅地

1) 戸建て住宅に居住する世帯の比率が高くなっています。岡村一丁目は 70.0%、滝頭一丁目は 68.2%、二丁目は 71.6%です。

2) これらの地区では、子育て世代やその子どもの転入増加傾向と、世帯分離、転出等により人口が減少する傾向がともにあり、結果的に人口、世帯数が安定した状態が続くと考えられます。

2.5 若い世代を中心に転入増加傾向が見られるようになってきており人口や世帯数は安定した状態が続く

1) 平成 23～28 年の期間の年齢 5 歳階級別人口の推移率が 59 歳以下の年齢層でいずれも上昇しており、緩やかな転入増加に変化してきています。地区の人口や世帯数は現在の傾向が続けば、安定した状態が続くと考えられます。

2) 生産年齢の人口、年少人口が減少する一方、高齢者は平成 32 年頃まで増加し、以降は安定すると考えられ、高齢化率は上昇を続けます。また、現在の傾向が続けば 75 歳以上の高齢者の増加は今後 10～15 年は続くと考えられます。